

平成22年度第11回公立大学法人滋賀県立大学教育研究評議会 議事録

日時・場所：平成23年2月1日（火）13：30～14：45 評議会室
出席者：曾我理事長（議長）、川口副理事長、大田理事、菊池理事、仁連理事、
横山理事、布野環境科学部長、松下工学部長、濱崎人間文化学部長、
藤田人間看護学部長、寄本国際教育センター長、長谷川教授、山根教授、
竹下教授、山田教授、地蔵堂教授、菅谷委員、斎藤委員
欠席者：井下委員
事務局：堀部事務局次長、坪田グループ統括、小島グループ統括、
高田グループ統括、杉野グループ統括、藤野グループ統括、
郡田グループ統括、久保田グループ統括、山田副参事、山内主査

平成22年度第10回公立大学法人滋賀県立大学教育研究評議会議事録（案）について
報告事項3「特別聴講学生の受入について」の質疑のうち、「人間文化学部の講義
を受ける留学生が多くなっている」とあるのを「人間文化学部のみの講義を受けるよ
うになっている」に修正したうえで、承認された。

報告事項

- 1 工学部長、人間文化学部長、人間看護学部長の予定者について
曾我理事長より資料に基づき報告があった。
- 2 特別聴講学生の受入について
大田教育担当理事より資料に基づき報告があった。
- 3 ダナン大学（ベトナム）との包括交流協定の締結について
大田教育担当理事より資料に基づき報告があった。
- 4 平成23年度私費外国人留学生特別選抜試験の合格状況について
藤野教務グループ統括より資料に基づき報告があった。
- 5 平成22年度卒業・修了予定者の進路・就職内定状況等について
杉野学生・就職支援グループ統括より資料に基づき報告があった。
就職内定率の推移を見ると、昨年度から全国平均を下回っているが、傾向が現れた
段階で早急に対策を行う必要があり、より踏み込んだ対応を検討すべきであるとの意
見があり、4月からキャリア教育科目を新設するほか、研修やインターンシップの取
り組みを進めているとの回答があった。
また、他大学では、一人一人と面談を行い、個人ごとにフォローしていく取り組み
を始めた例もあるが、相談に来ない学生に対する支援の仕組みが必要であるとの意見
があった。
- 6 平成22年度学位記授与式の実施について
杉野学生・就職支援グループ統括より資料に基づき報告があった。
- 7 全学共通教育推進機構の副専攻運営会議等について
大田全学共通教育推進機構長より資料に基づき報告があった。
学芸員資格の改正が予定されているが、教職課程や学芸員課程については、これら

の情報収集に注意する必要があるとの意見、国立大学の教育学部では、学科改編などにより、教育学に特化する傾向にあり、本学でも教職課程の学生の資質を高める必要があるとの意見があった。

8 各委員会等の結果の概要について

- (1) 平成22年度第4回社会貢献推進委員会（書面開催）
- (2) 平成22年度第5回入学試験委員会
- (3) 平成22年度第3回広報委員会
- (4) 平成22年度第8回教育実践支援室FDミーティング

その他

1 平成23年度年度計画の素案について

年度計画の取りまとめの状況について、川口副理事長、大田理事、菊池理事および仁連理事より、資料に基づき説明があり、意見がある場合には、2月15日までに担当理事まで申し出ることとされた。

キャリア教育、就職支援の充実、強化に関して、重点推進施策に位置付けられているにもかかわらず、個別の取り組み内容を重点事項にしていないものが多いが、すべての学生がインターンシップに参加するようにし、事前の研修を充実させるなど、全学的に取り組んでほしいとの意見、他大学の大学院では、5ヶ月程度のインターンシップがあり、受入先の指導者に客員教授等の資格を与えている例があるとの意見、大学側の担当教員が受入先を訪問することも必要であるとの意見があった。

また、国際コミュニケーション学科の開設に関連する項目について質問があり、当該学科の開設は、現行の中期目標には位置付けられていないが、平成23年度に取り組むべき準備事項を年度計画としているとの回答があった。

次回の教育研究評議会の開催時間の変更について

3月1日（火）開催の教育研究評議会については、開始時間を14時からに変更することとされた。